

表紙写真：災害救援専門ボランティア研修会より

今号のトピック

ヨメテルが始まります

■ 所長 西條保幸

相手の声が読める電話「ヨメテル」が2025年1月23日にリリース（公開）されます。電話リレーサービスが公共インフラとして整備されてから3年半経過しますが、難聴者・中途失聴者の方に便利な新しいサービスが登場することになります。

何が便利なの？

これまでの電話リレーサービスは、利用者側（聴覚障害者の方々）が用件を伝えるためには手話か文字入力が必要でした。文字入力は人によっては結構負担が大きかったと思います。ヨメテルでは自分の声で用件を伝えることが出来ます。そして相手の声は文字で返ってきます。

利用方法は

スマホにヨメテルのアプリをインストールして登録する必要がありますが、登録方法は非常に簡単だということです。オンラインで本人確認が取れましたら、すぐにヨメテル用電話番号が発行されます。電話で相手先の声が聞こえにくい全ての人がヨメテルを利用することができます。本人の希望があれば、電話リレーサービスとヨメテルを同じ電話番号にすることが可能です。相手先から電話があった場合、従来の電話リレーサービスに繋がるのか、ヨメテルに繋がるのか、詳細はリリース後の情報を待ちたいと思いますが、基本的には、利用者（聴覚障害者の方々）がどちらのサービスで着信を受けたいかを選択できるようになるとのことです。

通話について

発信すると、まず、通話相手には「電話リレーサービスのヨメテルです。あなたの声を文字にして相手に表示します・・・。」といった音声ガイダンスが

流れます。その後、利用者は自分の声で用件を伝え、相手からの音声は文字に変換されて画面に表示されるという流れになります。相手の声を聞くこともできます。文字表示方法はAI（自動音声認識）と文字入力オペレータ（人による文字入力）を都度選択することが出来ます。通常はAIに設定されていますが、文字入力オペレータを希望する場合は、ダイヤル画面で変更できます。AI（自動音声認識）は表示スピードが速く、一方、文字入力オペレータは固有名詞などがより正確だという利点があります。しかし残念ながら通話途中での変更は出来ません。

利用料金など

気になる利用料金ですが、現状の電話リレーサービスと同じだそうです。また、110や119などの緊急通報も可能になっています。さらに、ヨメテル同士の通話も可能です。

現在、来年1月の正式リリースを目指して試験運用が行なわれています。全国からおおよそ500名の方々がモニターとして参加して、文字起こしの質、設定変更・通話履歴などのアプリの様々な機能が使いやすいかなどを確認しています。

新しい電話リレーサービス「ヨメテル」が電話で相手の声が聞きにくいと思われる全ての人の救世主になってくれることを期待してリリースの日を楽しみにしたいと思います。

さて、今年1年、皆様にはいろいろとお世話になりました。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。良いお年をお迎えください。



能登半島地震での支援活動の経験

災害救援専門ボランティア研修会

11月10日（日）、きらめきプラザ301会議室で災害救援専門ボランティア研修会を開催し、36人の参加がありました。9月1日開催予定でしたが台風10号接近により延期になっていたものです。講師は、県庁疾病感染症対策課の森本健介（もりもとけんすけ）氏。保健師の資格をお持ちで、過去、新潟中越沖地震や東日本大震災などでも支援活動のために県から派遣された経験があります。



テーマは「能登半島地震での支援活動の経験」で講師は今年の1月6日から13日まで石川県珠洲市で岡山県チームのリーダーとして支援活動に従事されています。講演は避難所や支援活動の実態・問題点などを資料・写真を使ってご説明いただきました。チームで支援する場合、チームワークや安全管理の知識が重要だが、現場では、野外キャンプのテント張りや、コマ回し・折り紙など

趣味や娯楽の技能が大いに役立つというお話が印象に残っています。参加者からは被災者への寄り添い方や避難所での聴覚障害者の対応などの質問があり、講師は自らの思いも含めて回答されました。

講演後は、定番となった遠隔通訳の実施訓練を行いました。今回初めて手書き要約筆記の遠隔訓練をしました。OHCをパソコンに接続すれば手書きノートテイクを利用者に表示することができます。パソコン画面で文字の大きさや行間、表示される範囲を確認しながら筆記しました。

過去3年間でオンライン通訳の訓練はほぼ全員に経験していただけたのではと思っています。今後も実際の災害時を想定して遠隔訓練に取り組んでいきたいと思います。



文化講演会を開催しました

イベントのご報告

11月2日（土）、センター研修室で第9回文化講演会を開催し、26人の参加がありました。講師は、総社市観光プロジェクト課にお勤めの間所克仁（まどころかつひと）氏。平素は文化財専門職として、古墳や埋蔵文化財の調査・保護や出土品の企画展開催などの仕事をされています。今回は桃太郎伝説に出てくる鬼ヶ島のモデルになったと言われる「古代山城 鬼ノ城（こだいやまじろきのじょう）」についてご講演いただきました。

講演は桃太郎伝説の元になった温羅伝説（うらでんせつ）から始まりました。鬼ノ城を拠点に乱暴狼藉を働いていた温羅を、ヤマト政権から派遣された吉備津彦命（きびつひこのみこと）が退治する物語です。鬼ノ城の麓には温羅伝説にちなんだ旧跡が多々残っています。矢喰宮（やくいのみや）、血吸川（ちすいがわ）、鯉食神社（こいくいじんじや）など。ちなみに、伝説では、矢喰宮は吉備津彦命と温羅の放った矢が空中でぶつかって落ちてきた場所、温羅の左目に矢があたり温羅の目から流れ出した血が血吸川を赤く染め、鯉に化身した温羅が鵜に化身した吉備津彦命に食われた場所が鯉食神社とされています。温羅伝説は何度聞いても不可思議で途方もないような物語です

が、その中に隠された史実をあれこれと考えるのも面白いのかも知れません。ちなみに、吉備の中山の山上にある中山茶臼山古墳は吉備津彦命のお墓であるとされています。

さて、考古学・歴史学では鬼ノ城は飛鳥時代に国内の防衛を目的に作られた古代山城と考えられているそうです。当時、日本・百済連合軍は朝鮮半島で唐・新羅連合軍と対立しますが敗れてしまい、その防衛策として鬼ノ城のような山城が西日本各地に造られたとのこと。ただ、鬼ノ城周辺では戦闘の痕跡は見つかっていないし、それどころか城内では武器庫さえも発見されていないそうです。唐・新羅の日本への侵攻はなかったのか？

鬼ノ城の西門は復元されて当時の姿を目の当たりにすることが出来ます。また、そこからの眺望は素晴らしくお勤めの観光スポットです。

講演後参加者から、古代山城は大陸の影響を受けているのか？鬼ノ城以外の古代山城でも武器庫は見つかっていないのか？などたくさんの質問が出され、盛り上がりのある有意義な講演会でした。



イベント お知らせ 参加費無料

主催・申込・問合せ 岡山県聴覚障害者センター

FAX 086-224-0236 電話 086-224-0221 E-mail okaty@kirameki-plz.com

いずれも手話通訳・要約筆記つき。参加費は無料です。悪天候等の状況により中止又は延期となる場合がありますので、センターのHPをご覧ください。



災害救援専門ボランティア研修会

聴覚障害者と支援者の災害時の備え～“聞こえない”を救いたい～

防災士として啓発活動に注力されている大阪聴力障害者協会の笹川氏をお迎えし、自助・共助として知っておくべき災害時の備えについて学びます。

- 日 時：令和7年1月12日（日）13:30～16:00
- 場 所：きらめきプラザ 4階401会議室
- 内 容：①講演「聴覚障害者と支援者の災害時の備え ～“聞こえない”を救いたい～」
講師 公益社団法人大阪聴力障害者協会 常任理事 笹川 和廣 氏（防災士）
②遠隔通訳の実施訓練
- 対象者：登録手話通訳者、登録要約筆記者、聴覚障害者、聴覚障害者の福祉や防災に関心のある方

センターの とりくみ

「みんながきらめく手話の会」

岡山県聴覚障害者センターでは、どなたでも参加できる手話サークル「みんながきらめく手話の会」（略してきら手話）を毎週木曜日に開催しています。きら手話では、手話の学習や手話での会話を楽しみながら手話を学びたいという意欲を育てています。また、聞こえない方の参加も多数あり、身近な生活のことや体験談などの貴重な話も教えていただけます。季節の行事では、春にはお花見、冬にはクリスマス会などを企画して交流を深め、仲間と一緒にコミュニケーション能力を高めることができます。手話に興味のある方は一度見学に来てみてください。ご参加お待ちしております。



- 開催日：毎週木曜日
- 時 間：午前10時～12時
- 内 容：手話を介した交流・学習会
- 対 象：手話に興味をお持ちの方

学校教育との連携

岡山聾学校小学部5年の児童と引率教員合わせて4人が11月29日に校外学習で来所しました。振動式目覚まし時計など便利グッズを体験しました。

講座が終わりました

●手話通訳者養成講座

【応用課程】岡山会場が11月9日に終わり10人、高梁新見会場が12月1日に終わり9人がそれぞれ修了しました。

【実践課程】11月10日に終わり9人が修了しました。

●要約筆記者養成講座

要約筆記者養成講座が12月8日に終わり19人が修了しました。



令和7年もどうぞよろしくお願いいたします。





新着 DVD 字幕入り DVD が入荷しました。ぜひご覧ください。

- 「わ・す・れ・な・い 映像教訓 巨大地震から生き延びる」 (フジテレビ 59 分)
東日本大震災 10 年を機に発足した NHK と民放 5 局による「6 局防災プロジェクト」の参加番組のひとつ。巨大地震の揺れに注目し、どうすれば命を守ることができるのか映像検証を通して考える。
- 「ろうの演出家 米内山明宏さんをしのんで」 (NHK 30 分)
日本ろう者劇団を立ち上げ、聞こえる人も聞こえない人もともに楽しめる演劇を模索してきた。日本手話やろう文化を聴者に伝えるため、長年にわたり手話の指導も行い、ろう文化の発展に大きく貢献した米内山さんの活動を紹介する。
- 「名探偵コナン 宮野明美のタイムカプセル (前編) (後編)」 (読売テレビ 各 25 分)
帝丹小学校の卒業生・宮野明美が埋めたタイムカプセルを探すことになったコナンたち。暗号を解きながらヒントとなる文字を見つけていくが、コナンは何者かがタイムカプセル探しを妨害していると考え。コナンは灰原のために、姉の明美が残した手紙を手に入れることができるのか。

センターの とりくみ

“手話で情報発信”をはじめました

聴覚障害の方に手話で情報発信する動画 (字幕入り) の配信をはじめました。センターのホームページ (右下の QR コードを読み込むか、TOP ページ [映画・動画] - [手話で情報発信]) もしくはセンター YouTube チャンネルで見ることができます。現在、5 本の動画を配信しています。今後も随時、新しい動画を配信しますのでぜひご覧ください。



- 第 1 回 令和 6 年 4 月 1 日から合理的配慮の提供が義務化されました！
- 第 2 回 障害者割引された乗車券がネット予約可能になりました
- 第 3 回 関係団体の紹介① 公益社団法人 岡山県聴覚障害者福祉協会
- 第 4 回 全国初 岡山県内すべての自治体で手話言語条例が成立
- 第 5 回 手話言語の国際デー～手話普及とろうあ者の権利のための記念日～



編集後記

今年も残すところあと少しになりました。皆さんにとって 2024 年はどんな年だったでしょうか。世相を反映した今年の漢字は「金」でした。パリオリパラや政治の裏金問題から「金」が選ばれたそうです。裏金問題はさておき、パリオリパラではアスリートの活躍に勇気と感動をもらいました。そして、スポーツの持つ力を改めて実感することができました。来年はいよいよデフリンピックです (開催期間：2025 年 11 月 15 日～11 月 26 日)。日本開催はなんと初！東京都内を主会場に、全 21 種目の競技がおこなわれます。70～80 の国と地域から、約 3,000 人の選手が参加する予定とのこと。世界各国の注目を集めるこの大会を成功させるために、私たち岡山から盛り上げていきましょう！



開館カレンダー

- ◆ 開館日 月・水～金曜日 9 時～19 時
土・日曜日 9 時～17 時
- ◆ 閉館日 毎週火曜日、国民の祝日、火曜日が祝日の場合その翌日も休館
※ 年末は 12 月 27 日 (金) まで開館し、年始は 1 月 5 日 (日) から開館します

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					